

【臨床・研究】

島根の地域医療をめぐる課題と今後の取り組み ～地域医療支援コーディネータ修士課程1年次を終えて～

ふじ い ま ゆ み 1) くま くら しゅん いち 2)
藤 井 麻由美 熊 倉 俊 一
こ ばやし しょう たい 3)
小 林 祥 泰

キーワード：医師不足，地域医療支援，ネットワーク，地域連携

要 旨

深刻化する島根の地域医療を支援するためには，魅力ある職場づくり，住みよい地域づくりが必要であり，地域で勤務する医師が，いつまでも生き活きと活躍できるサポート体制の構築が求められている。このような状況の中，支援の一翼を担う新たな人材として「地域医療支援コーディネータ」の養成が始まっている。

地域医療支援コーディネータに必要な視点として，1) 大学病院と地域医療機関のネットワーク強化，2) 安心して勤務・生活できるキャリアパスの構築，3) 医学生に対する地域医療への動機づけ，4) 郷土愛を育む人材育成，5) 地域住民による地域医療支援，6) PDCA サイクルの確立，について整理した。大学病院，県・市町村，地域医療機関，さらには地域住民それぞれが，顔の見える関係の中で人と人とのつながりを強め，島根らしい体制を構築していくためのコーディネータが，これからの役割となると考えている。

はじめに

島根の医師不足の問題は，近年さらに深刻化している。東西に長く中山間地や離島を抱える地理的条件，全国に先駆けて進む高齢化・過疎化などを背景に，人的にも財政的にも限られた医療資源の中での対応が迫られている¹⁾。「地域医療支援コーディネータ養成コース（以下「コース」とい

う。）」は，このような島根の地域医療を守るため，地域で勤務する医師等をサポートするための新たな人材育成を目的に，全国で初めて島根大学大学院医学系研究科の修士課程として2009年度に新設された。

現在私は，県の医師確保対策室に在籍しながらこのコースの第1期生の一人として学んでいる。その過程で，島根の地域医療を支援するためには，どのような視点を大切に，何をコーディネータすることが求められているのかを検討し，これからの地域医療支援のために取り組むべきことを整理

Mayumi FUJII et al.

1) 島根県健康福祉部医療政策課医師確保対策室

2) 島根大学医学部地域医療教育学講座 3) 同 附属病院

連絡先：〒690-8501 島根県松江市殿町1番地